

医歯学系専攻

顎顔面外科学

Maxillofacial Surgery

講師	山口 聡
助教	儀武 啓幸、道 泰之、中久木康一、森田 圭一
医員	名生 邦彦、友松 伸允、佐久間朋美、長岡 亮介、炭野 淳、三浦 千佳、小杉真智子、 (4月～) 金丸 智紀、柴田 真理、杉山健太郎、本多奈津子、丸岩真由子、高木 万菜
大学院生	星 礼子、西原 駿、外内えり奈、稲田大佳輔、ドゥルグーン バットボールド(モンゴル 留学生)、 曽根 絵梨、押部 成美、中里桂一郎、加藤 寛史、山田 隆彦、金 裕純、兵頭 克弥、山本 大介、 (4月～) 柴田 恵里
大学院研究生	小室千鶴子、菊地 孝弘、高坂 晋哉、六島 聡一、(4月～) 生野 誠、和智 宏太郎
名誉教授	天笠 光雄
臨床教授	山城 正司
非常勤講師	藤井 英治、長谷川和樹、山崎 安晴、石井 純一、和気 裕之、山城 正司、山田 隆文、佐藤 仁、 宮地 英雄、小林 明子、佐藤 文明、新中 康史、鈴木 鉄夫、山根 正之、渡部 隆夫、佐藤 豊、 三島木節、黒原 一人、愛甲 勝哉、大山 徹雄、阿部 成宏、水谷 美保、倉沢 泰浩、道川千絵子

(1) 研究活動

当分野では多岐にわたる顎顔面口腔領域の疾患に対し、以下のテーマを中心に研究を行っている。

1) 顎変形症：術後の安定性と手術術式の改良を目的とした研究を行っている。特に、口内法における術式の改良、術後の下顎頭の安定性、後戻り、下顎運動、皮膚感覚、安全な上顎骨後方挙上等について検討している。三次元超音波振動切削機(ピエゾサージェリー、ソノベット)を導入し、神経血管・骨膜損傷を抑える骨切り等を行っている。また骨接合の際に用いる吸収性プレートの力学的強度の研究を企業との産学連携研究として行っている。口唇口蓋裂患者の重度の上顎發育不全に対して創内延長装置である Zurich maxillary distractor や RED system を用いた上顎全体の骨延長の適応や術後の安定性に関して検討している。自己血貯血の実態調査、外科手術前後の栄養調査、意識調査・口腔衛生に対する評価を行い、実際の臨床に反映させている。下顎枝矢状分割術における下顎頭位置決め方法についても改良を進めている。

また、クリニカルパスを導入して安全、確実な入院加療、術後入院期間の短縮を実現して患者に優しい医療を目指している。

2) 口腔悪性腫瘍：超音波、CT、MRI、PET等の画像を用いた診断や腫瘍進展範囲の検索の精度を向上させるための研究を引き続き行っている。超音波診断においては、カラードプラ超音波診断器を導入し、病変の血流の有無、方向、流速、性状など、腫瘍の質的診断の研究を行っている。口腔癌の組織型、発生部位別の治療成績の検討から、予後不良因子を抽出し、常に治癒率の向上を目指している。また、重複癌に関する臨床的研究、若年者・高齢者における口腔癌患者の動向に関する臨床的研究、遠隔転移様相に関する臨床的研究、口腔癌切除後の創被覆法、切除法の工夫に関する研究を行っている。さらに、術後治療の標準化、新規抗がん剤治療による治療成績についての研究を行い、治療成績の向上に寄与する研究を行っている。口腔再建手術後の咀嚼、嚥下、構音などの口腔機能の評価法に関する研究も進めており、術後 QOL を向上させる再建法について検討を行っている。術後の摂食・嚥下障害が予想される患者に対しては、摂食リハビリ外来や病棟スタッフとの連携のもとで、術前より摂食・嚥下機能評価を行っている。特に腫瘍切除後に組織移植により再建術を行う患者に対しては、クリニカルパスを作成し、早期のリハビリ開始や、術後入院期間の縮小がはかられている。また、言語機能評価は言語治療外来にて行っているが、切除範囲や術式ごとの検討を行うことにより、機能温存を重視した術式の開発に取り組んでいる。

3) 口唇口蓋裂：口唇口蓋裂患者の初回手術前より口蓋床を用い、術前顎發育誘導による歯列弓形態の経時的な変化について解析を行っている。口唇形成や口唇修正においては、積極的に人中形成を含めた自然な三次元的形態回復を行っている。顔面の形態評価については2次元解析を行っている。口蓋形成では、言語機能や顎發育の両面を考慮したよりよい術式を選択し、成長期における咬合状態と言語機能について評価を行い、咬合や言語に与える因子の解析を行っている。顎裂部への二次的骨移植については、単純 X線写真や CT を用い骨形態や歯列弓形態についての評価を行っている。また、鼻咽腔閉鎖機能不全に対してまずは発音補助装置を用い改善を図り、必

要に応じて咽頭弁移植術を行い、鼻咽腔閉鎖機能の獲得を行っている。重度の上顎劣成長に対しては、骨延長を適応し咬合改善を行い、術後の後もどりや長期術後安定性について検討を行っている。治療終了期の患者の総合評価を行い、治療プロトコルの問題点や改善点について検討している。研究面では、研究書承諾書を頂いた患者さんから手術中に生じた患者さんの血液、組織を用いて口唇・口蓋裂の発生に関わる遺伝子解析を本学分子発生学分野と共同研究を行っている。

4) 顎関節疾患：口腔疾患と心因的な関連について、顎関節症患者を含む当科外来患者を対象として必要に応じて心理要因の調査を実施し、疼痛と不安・抑うつとの関連性を解析し、治療法を検討している。また顎関節に発生する腫瘍性病変についての外科治療を行うとともに発症原因や病態解明についての検索を行っている。従来からある開口訓練器の改良を行うと共に新しい型式の開口訓練器と開口度測定器の新規開発、それらの実用化と臨床応用に向けての研究開発を進めている。

5) 口腔再建：舌、口底、頬粘膜などの軟組織再建は、主に、前腕皮弁や腹直筋皮弁などの遊離皮弁移植を用いて行っている。顎骨などの硬組織再建は、遊離肩甲骨複合皮弁などの血管柄付き骨移植、骨髄海綿骨細片(PCBM)などによる再建を行っている。顎義歯、インプラント義歯など用いた咬合再建を最終目標とする取り組みと、咀嚼機能、QOL 評価を通じて、より安全で機能的な口腔再建法の確立と機能評価・術式の標準化へ向けた研究を行っている。

6) 口腔粘膜疾患：白板症、扁平苔癬などの口腔粘膜疾患に対する治療のために専門外来を設置している。また粘膜疾患の病態に対する原因の調査を、全身疾患、局所、心因性のものにわたって行い、治療には一部東洋医学も導入している。

7) 歯および骨の再生に関する研究：歯髄細胞を細胞供給元とした再生医療の研究を進めている。これまでにヒト歯髄細胞は無血清培地にて培養した場合には象牙質を形成することが見いだされた。歯の再生には上皮系細胞と間葉系細胞が必要と思われる。上皮系細胞としてヒト口腔粘膜上皮細胞、間葉系細胞としてヒト歯髄細胞に着目し歯の再生研究を行っている。最近になり手術時に生じる余剰骨組織よりヒト骨髄間葉系幹細胞の培養にも成功しており、再生医療への応用研究を展開していきたいと考えている。

8) 口腔癌に対する基礎的研究：口腔癌検体より、レーザーマイクロダイセクションを用いて、それぞれの検体から正常部、上皮性異形成部、癌部を採取し、マイクロアレイ解析を行うことにより口腔癌の発癌過程における mRNA レベルの発現の変化をデータベース化した。そのデータベースより、正常から上皮性異形成、上皮性異形成から浸潤癌への変化に伴い有意に発現が変化する遺伝子を同定した。

(2) 教育方針

口腔外科学においては口腔、顎、顔面領域に現れる先天性および後天性疾患について、その病因、病理、症状、診断、処置ならびに予後を理解させ、かつ、各種疾患の予防および治療に応用させるように教育する。口腔外科学で取り扱う範囲は非常に広く歯科と医科との重なり合った領域を扱うため、内科学、外科学ならびに隣接臨床医学とは密接な関係を有している。口腔外科学は一般に、歯およびその周囲組織を中心とした疾患を対象とする歯科口腔外科学と、顎口腔顔面領域にわたる疾患を対象とする顎口腔外科学に区分することができ、顎顔面外科学分野は顎口腔外科学分野と分担して教育する。

1-1 第5学年前期において、次の内容について講義を行う。

顎口腔医療（内容については顎口腔外科学分野と分担して行う）

- 1) 顎口腔顔面領域の奇形，特に唇顎口蓋裂
- 2) 顎口腔顔面領域の変形症
- 3) 顎口腔顔面領域の損傷
- 4) 顎口腔顔面領域の炎症・感染症
- 5) 顎口腔顔面領域の嚢胞
- 6) 口腔粘膜疾患
- 7) 顎口腔顔面領域の良性，悪性腫瘍
- 8) 顎関節疾患
- 9) 唾液腺疾患
- 10) 系統的骨疾患
- 11) その他

以上の疾患の成因、症状、診断、処置および予後について講義を行う。

1-2 第5学年前期に次の内容について実習を行う。

- 1) 臨床検査とその評価
 - (1) 一般簡易検査（血液型、赤血球数、白血球数、色素量、血球容積、血球沈降速度、血液像、尿検査）
 - (2) 血液検査手技（静脈採血、動脈採血）
 - (3) 血清生化学検査、尿生化学検査（付、薬剤アレルギー検査、皮内反応）
 - (4) 顎部の診察

2) 滅菌および消毒法

手指の消毒, 手術野の消毒, 器械・器具の消毒など

3) 抜歯の基本手技

抜歯鉗子・挺子の使い方

4) 顎間固定法

連続歯牙結紮など

1-3 第6学年臨床実習

外来実習では抜歯およびその他外来小手術の基本手技、投薬など、病棟実習では入院患者に対する手術を理解し、術前・術後管理の基本などを修得する。

1-4 歯学部第6学年の特別講義を行っている。

1-5 医学部医学科第3学年および歯学部歯学科第3学年の顎顔面顎部臨床ブロックの講義を担当している。

1-6 医学部医学科第4学年、口腔外科の講義、医学部医学科第5学年、口腔外科実習を担当している。

1-7 医学部保健衛生看護学科の講義を担当している。

1-8 医歯学総合研究科歯科学専攻修士課程の講義を担当している。

(3) 臨床上的特色

臨床上的特色:近年の口腔外科疾患に対する治療法の進歩により最新かつ専門化した集学的治療体系が必要とされてきている。これに対応して当科では顎変形症、口腔悪性腫瘍、唇顎口蓋裂、顎関節、口腔粘膜疾患に対して専門外来を設け個々の患者へのきめ細かい対応ができる態勢を整えている。同時に集学的治療の実践のため、顎変形症や唇顎口蓋裂では症例検討会を矯正歯科外来と合同で行っており、口腔外科医と矯正歯科医が十分な検討を行った上で治療計画を立てている。また、悪性腫瘍に限らず病態が複雑な疾患や稀少な疾患を対象に口腔病理科、歯科放射線科と合同で臨床病理カンファレンス(CPC)を行い、症例について総合的に検討することにより、診断、治療に関わる知識を深め臨床に役立てている。

(4) 研究業績

[原著]

1. 中久木 康一. 【災害関連死を未然に防ぐ】 災害時の歯科保健の重要性 地域保健. 2017.01; 48(1); 42-47
2. Oikawa Y, Morita KI, Kayamori K, Tanimoto K, Sakamoto K, Katoh H, Ishikawa S, Inazawa J, Harada H. Receptor tyrosine kinase amplification is predictive of distant metastasis in patients with oral squamous cell carcinoma. *Cancer Science*. 2017.02; 108(2); 256-266
3. 中久木 康一, (公社)日本歯科医師会災害歯科保健医療連絡協議会 WG. 熊本地震における歯科支援と課題 *Japanese Journal of Disaster Medicine*. 2017.02; 21(3); 608
4. Nguyen CT, Okamura T, Morita KI, Yamaguchi S, Harada H, Miki Y, Izumo T, Kayamori K, Yamaguchi A, Sakamoto K. LAMC2 is a predictive marker for the malignant progression of leukoplakia. *Journal of Oral Pathology & Medicine*. 2017.03; 46(3); 223-231
5. 加地 博一, 丸山 緑子, 丸山 史人, 芝 多佳彦, 渡辺 孝康, 郷田 瑛, 村瀬 一典, 道 泰之, 竹内 康雄, 和泉 雄一, 山口 聡, 中川 一路. 細菌活動性から顕在化するインプラント周囲炎および歯周炎の疾患特異的な細菌群集内の共起構造 *口腔病学会雑誌*. 2017.03; 84(1); 25-36
6. 中久木 康一. 災害復興支援への歯科としての継続的なかかわりから 目指すゴールはどこに? *The Quintessence*. 2017.04; 36(4); 0818-0822
7. 中久木 康一, 北原 稔, 淵田 慎也, 門井 謙典, 田上 大輔, 小玉 剛, 佐藤 保. 災害時の歯科診療記録の提案 熊本地震における対応記録より *口腔衛生学会雑誌*. 2017.04; 67(増刊); 178
8. Akane Yukimori, Yu Oikawa, Kei-Ichi Morita, Chi Thi Kim Nguyen, Hiroyuki Harada, Satoshi Yamaguchi, Kou Kayamori, Akira Yamaguchi, Tohru Ikeda, Kei Sakamoto. Genetic basis of calcifying cystic odontogenic tumors. *PLoS ONE*. 2017.06; 12(6); e0180224
9. Yukimori A, Oikawa Y, Morita KI, Nguyen CTK, Harada H, Yamaguchi S, Kayamori K, Yamaguchi A, Ikeda T, Sakamoto K. Genetic basis of calcifying cystic odontogenic tumors. *PLoS One*. 2017.06; 12(6); e0180224

10. Md Zahirul Haque Bhuyan, Yukihiro Tamura, Eri Sone, Yuki Yoshinari, Chizuko Maeda, Mariko Takahashi, Yasuhiko Tabata, Ramachandran Murali, Yoshihiro Waki, Kazuhiro Aoki. The intra-articular injection of RANKL-binding peptides inhibits cartilage degeneration in a murine model of osteoarthritis. *J. Pharmacol. Sci.*. 2017.06; 134(2); 124-130
11. 中久木 康一, 淵田 慎也, 門井 謙典, 薬師寺 登, 小枝 義典, 槻木 恵一, 小玉 剛, 村岡 宜明, 柳川 忠廣, 佐藤 保. 災害拠点病院の歯科における災害時対応に関する調査研究 *日本歯科医療管理学会雑誌*. 2017.06; 52(1); 43-48
12. J Sumino, N Uzawa, Y Ohyama, Y Michi, A Kawamata, M Mizutani, M Yamashiro. First signs of late-presenting cervical lymph node metastasis in oral cancers during follow-up. *Int J Oral Maxillofac Surg*. 2017.06; 46(6); 676-681
13. 大山 巖雄, 長谷川 和樹, 宮本 日出雄, 山口 聰. 顎部郭清術後に生じた両側乳糜胸の1例 *日本口腔腫瘍学会誌*. 2017.06; 29(2); 59-63
14. 中久木 康一, 淵田 慎也, 門井 謙典, 薬師寺 登, 小枝 義典, 槻木 恵一, 小玉 剛, 村岡 宜明, 柳川 忠廣, 佐藤 保. 災害拠点病院の歯科における災害時対応に関する調査研究 *日本歯科医療管理学会雑誌*. 2017.06; 52(1); 43-48
15. Y Ohyama, N Uzawa, M Yamashiro, S Yamaguchi. Congenital lipoma of the hard palate: case report. *Br J Oral Maxillofac Surg*. 2017.07; 55(6); 626-627
16. 隅田由香, 原口美穂子, 服部麻里子, 乙丸貴史, 村瀬舞, 吉志元, 山口聰, 原田浩之. . イミディエイトサージカルオブチュレタ (ISO) 製作のコンセプトについて *頭頸部癌*. 2017.10; 43; 95-99
17. Syun Nishihara, Mami Ikeda, Hitoshi Ozawa, Masako Akiyama, Satoshi Yamaguchi, Ken-Ichi Nakahama. Role of cAMP in phenotypic changes of osteoblasts. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*. 2017.11;
18. Ogasawara T, Uezono M, Takakuda K, Kikuchi M, Suzuki S, Moriyama K. Shape Optimization of Bone-Bonding Subperiosteal Devices with Finite Element Analysis *BioMed Research International*. 2017.11; 2017; 3609062
19. Kim Y, Okuyama K, Michi Y, Ohyama Y, Uzawa N, Yamaguchi S. Potential factors influencing the development of oral tongue squamous cell carcinoma in young mature patients: Lingual position of the mandibular second molar and narrow tongue space *Oncology Letters*. 2017.12; 14(6); 7339-7343
20. 道 泰之, 原田 浩之. 口腔がん手術の適応を考える 組織型から考える *日本口腔腫瘍学会誌*. 2017.12; 29(4); 206-211
21. Dulguun Batbold, Masamichi Shinoda, Kuniya Honda, Akihiko Furukawa, Momoko Koizumi, Ryuta Akasaka, Satoshi Yamaguchi, Koichi Iwata. Macrophages in trigeminal ganglion contribute to ectopic mechanical hypersensitivity following inferior alveolar nerve injury in rats. *J Neuroinflammation*. 2017.12; 14(1); 249
22. 笠岡 宣代 [坪山], 近藤 明子, 原田 萌香, 上田 咲子, 須藤 紀子, 金谷 泰宏, 下浦 佳之, 中久木 康一. 東日本大震災における栄養士から見た口腔保健問題 *日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌*. 2017.12; 21(3); 191-199
23. 友松 伸允, 中久木 康一, 儀武 啓幸, 園田 格, 黒原 一人. 馬蹄形骨切り併用 Le Fort I 骨切り術のための上顎骨の解剖学的検討 *日本顎変形症学会雑誌*. 2017.12; 27(4); 197-205

[書籍等出版物]

1. 災害時の歯科保健の重要性. 2017.01
2. 災害時の口腔保健. 2017.02
3. 災害復興支援への歯科としての継続的なかわりから. 2017.04
4. 災害時の歯科保健の重要性. 2017.05
5. 食べる支援における歯科支援の現状と課題. 2017.11

[総説]

1. 木野孔司 編著 / 佐藤文明・澤田真人・渋谷寿久・澁谷智明・西山暁・羽毛田匡・儀武啓幸. 顎関節症のリハビリトレーニング
よく動く関節は痛くない 顎関節症のリハビリトレーニング
よく動く関節は痛くない. 2017.06;
2. Disaster Dentistry-Management of oral infectious diseases to prevent aspiration pneumonia 2017.06;
3. 日本顎関節学会編. 特別企画 一般歯科臨床での顎関節脱臼への対処法 歯科医展望. 2017.07; 130(1);
4. 日本顎関節学会編. 日本顎関節学会学術用語集 第1版 日本顎関節学会学術用語集 第1版 . 2017.07;
5. 儀武啓幸. 新型開口訓練器「ヤセック開口訓練器」による顎関節運動の誘導 yasec CASE REPORT. 2017.11; 3;
6. 儀武啓幸. 新型開口度測定器「ヤセック開口度測定器」の臨床応用 yasec CASE REPORT. 2017.11; 4;
7. 中久木 康一. 【多職種で取り組む災害時の食支援】 食べる支援における歯科支援の現状と課題 地域保健. 2017.11; 48(6); 30-33
8. 儀武啓幸. 新型開口訓練器の開発 デンタルマガジン. 2017.12; 163; 20-23

[講演・口頭発表等]

1. 及川 悠, 森田 圭一, 栢森 高, 坂本 啓, 谷本 幸介, 加藤 洋人, 石川 俊平, 稲澤 謙治, 原田 浩之. 口腔扁平上皮癌における遠隔転移予測因子としてのチロシンキナーゼ受容体. 第35回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 2017年1月26-27日 2017.01.26 福岡市
2. 口腔ケアで避難所生活の健口そして健康を！. 武蔵野地域防災活動ネットワーク(COSMOS) 平成28年度 地域防災セミナー 「災害に強くなる知恵と技」 避難支援活動協力員養成講座 2017.01.28 武蔵野市役所
3. 災害時の歯科保健医療～歯や口のトラブルで困らないために～. 健康公開講座 2017.01.29 ラッセホール(サンフラワー)
4. 大規模災害時における歯科支援のあり方. 徳島大学病院歯科診療部門 歯科口腔保健人材育成事業講演会, 平成28年度 キャリアアップ講演会・講習会事業 2017.01.30 徳島
5. 災害時の歯科保健医療～支援と受援～ ～自治体、歯科医師会、そして地域がん診療拠点病院の役割を考える～. 市立長浜病院 地域医療事業部・がん対策推進事業部 第285回 開放型病床生涯教育研修会 2017.02.02
6. 熊本地震歯科支援 ～報告と課題～. 平成28年度神奈川県歯科保健研修「大規模災害時歯科健康危機管理対応について(講義と図上演習)」 2017.02.09
7. 熊本地震における歯科支援と課題. 2017.02.14
8. 大災害における歯科支援活動の目的・意義 ～熊本地震の経験から～. 京都府歯科医師会 平成28年度警察歯科部講演会 2017.02.25 京都
9. これからの災害時歯科保健医療体制 ～熊本地震への対応から～. 宮城県歯科医師会 医療救護班研修会 2017.03.16 宮城
10. 当たり前が普通になりますように ～Minority 支援と地域保健～. 第29回プライマリヘルスケア研究所 茶話会 2017.03.17 東京
11. 災害時の口腔ケア —災害関連疾病の予防のためには. 災害時の歯科保健医療対策, 菊池地域歯科保健研修会 2017.03.21 菊池市
12. 合同シンポジウム 災害時の糖尿病医療の取組 災害時の口腔ケア～口腔感染症予防として～. 平成29年度 南多摩圏域糖尿病医療連携事業 南多摩圏域糖尿病医療連携検討会 スキルアップセミナー 2017.04.13
13. 千葉県歯科医師会の災害対応について. 千葉県歯科医師会災害対策・救急医療講習会 2017.04.20
14. 三浦千佳、道泰之、大山巖雄、鶴澤成一、名生邦彦、山口聰. 当科における腫瘍死症例の検討. 第71回日本口腔科学会学術集会 2017.04.27

15. 柴田真里、大山巖雄、野里女明代、橋田之彦、三浦千佳、炭野淳、名生邦彦、山城正司、道泰之、鶴澤成、山口聰. 下顎区域切除後の QOL および機能評価. 第 71 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2017.04.27 日本 愛媛
16. 医療用ヒル (Leech) を用いて肩甲骨皮弁の鬱血状態が改善した 1 例. 第 42 回日本口腔外科学会中部支部学術集会 2017.05.13
17. 小川卓也、伴田みさと、上園将慶、駒崎裕子、辻美千子、森山啓司. 口唇裂・口蓋裂を伴う希少遺伝性疾患患者の矯正歯科治療に関する実態調査. 第 41 回日本口蓋裂学会総会・学術集会 2017.05.18 東京都港区
18. 上園将慶、小川卓也、山口聡、森山啓司. 舌縮小術を施行し矯正歯科治療単独で咬合の改善を図った Beckwith-Wiedemann 症候群の 1 例. 第 41 回日本口蓋裂学会総会・学術集会 2017.05.18 東京都港区
19. 森田 圭一、壬生 美智子、乙丸 貴史、島崎 一夫、小川 卓也、立川 敬子、宮新 美智世、小野 卓史、森山 啓司、谷口 尚、原田 浩之. 東京医科歯科大学歯学部附属病院顎口腔変形疾患外来の取り組み. 第 41 回 日本口蓋裂学会総会・学術集会 2017 年 5 月 18-19 日 2017.05.18 東京
20. 宮本 順、田村 明日香、小倉 健司、小川 卓也、森田 圭一、森山 啓司. 思春期性成長後期に上顎骨延長法を適応した片側性口唇口蓋裂の一例. 第 41 回 日本口蓋裂学会総会・学術集会 2017 年 5 月 18-19 日 2017.05.18 東京
21. 香月 佑子、三島木 節、佐藤 豊、森田 圭一、長岡 亮介、山口 聡. 片側完全唇顎口蓋裂患児における術前顎發育誘導の効果予測に関する検討. 第 41 回 日本口蓋裂学会総会・学術集会 2017 年 5 月 18-19 日 2017.05.18
22. Kikuchi M, Sato T, Shirosaki Y, Aizawa M, Kadowaki K, Uezono M, Moriyama K, Takakuda K. Hydroxyapatite/collagen bone-like nanocomposite for medical applications (Invited) . 12th Pacific Rim Conference on Ceramic and Glass Technology 2017.05.21 Hawaii, USA
23. 友松 伸允、道 泰之、水谷 美保、小杉 真知子、山口 聡. 舌癌術後 CCRT 中に偽膜性大腸炎、多発膿瘍を併発した 1 例. 第 203 回日本口腔外科学会関東支部学術集会 2017.05.24 東京
24. 災害時の歯科診療記録の提案 ～熊本地震における対応記録より～. 2017.05.31
25. 災害時の歯科保健医療体制をめぐって～平成 28 年熊本地震等を受けて～. 2017.05.31
26. 栗林亜実、坂本潤一郎、森田圭一、栢森高、鈴木紀子、倉林亨. 頬部に発生した乳腺相似分泌癌の 1 例. 日本歯科放射線学会第 58 回学術大会 2017.06.03 鹿児島市
27. 森田 圭一、栢森 高、名生 邦彦、道 泰之、山口 聡、佐藤 由紀子、竹内 賢吾. 耳下腺導管部に発生した乳腺相似分泌癌の一例. 第 41 回 日本頭頸部癌学会 2017 年 6 月 8-9 日 2017.06.08 京都市
28. 炭野 淳、鶴澤 成一、大山 巖雄、道 泰之、川俣 綾、水谷美保、山城正司. 口腔癌術後の顎部リンパ節の経過観察の標準化. 2017.06.08 日本、京都
29. 超音波固定生体吸収ピンを用いたシステムを Le Fort I 型骨切り術に適応する場合のメッシュ屈曲の工夫. 2017.06.15
30. 中久木 康一、友松 伸允、黒原 一人、隈 陽一郎、小杉 真智子. 超音波固定生体吸収ピンを用いたシステムを Le Fort I 型骨切り術に適応する場合のメッシュ屈曲の工夫. 第 27 回 日本顎変形症学会・学術大会 2017.06.16 東京
31. 高橋由記. 骨格性上顎前突症患者におけるモーションキャプチャーを用いた発音時口唇動態解析の試み. 第 27 回日本顎変形症学会総会・学術大会 2017.06.16 東京都江東区
32. 東 雅啓、中久木 康一、瀧田 慎也、松尾 雅斗、榎木 恵一. 平成 26-28 年度の歯学部 1 年生における災害時歯科保健医療に対する意識調査の比較. 日本歯科医学教育学会総会・学術大会プログラム・抄録集 2017.07.01
33. その時、歯科はどう動くべきか ～災害時の歯科保健活動の目的と実際～. 旭川歯科医師会 災害時研修会 2017.07.02
34. 災害時の歯科支援 ～実際に起きる困りごととはどんなこと? どう対応? ～. 旭川歯科医師会 災害時研修会 2017.07.02
35. 災害対策本部運営訓練 (グループワーク). 旭川歯科医師会 災害時研修会 2017.07.02
36. 上園将慶、高久田和夫、菊池正紀、鈴木聖一、森山啓司. ハイドロキシアパタイト/コラーゲンナノ複合体コーティングの新生骨誘導能に関する基礎的検討. 9th World Implant Orthodontic Conference 2017.07.03 兵庫県神戸市

37. 河崎 陸, 佐々木 善浩, 西村 智貴, 関根 由莉奈, 森田 圭一, 丸川 恵理子, 澤田 晋一, 向井 貞篤, 秋吉 一成. 磁性ナノゲルシヤペロンによるタンパク質デリバリー. 第 33 回日本 DDS 学会学術集会 2017 年 7 月 6-7 日 2017.07.06 京都市
38. 災害時の介護施設への歯科介入のあり方に関する調査報告. 2017.07.14
39. 熊本地震後の南阿蘇地区において口腔機能支援を通じて多職種と連携した「食べる」支援活動の報告. 2017.07.14
40. 歯科支援の現状と、今後の多職種連携に向けての課題. 日本災害食学会第 5 回大会シンポジウム「食支援のための多職種連携」 2017.07.15
41. 金裕純, 和気創, 佐藤文明, 和気裕之, 儀武啓幸. 前歯部開咬を呈する両側下顎骨関節突起骨折に対して非観血的治療を行い良好な結果を得た 2 例. 第 30 回日本顎関節学会総会・学術大会 2017.07.29 日本横浜
42. 顎関節症と頭痛－顎関節症と鑑別がひつような頭痛と脳疾患. 第 30 回日本顎関節学会総会学術大会 イブニングセミナー 2017.07.29 神奈川
43. 下顎頭の前方滑走運動を誘導する新型開口訓練器の臨床応用. 第 30 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会 (第 22 回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会 共催) 2017.07.29 横浜
44. 災害時歯科保健活動の実際～地域を守るために～. 静岡市災害時歯科保健活動研修会 2017.08.28 清水
45. 災害時歯科保健活動の仕組み～多職種での連携に向けて～. 2017.08.28
46. 災害時歯科保健活動の実際～地域を守るために～. 静岡市災害時歯科保健活動研修会 2017.09.11 静岡
47. 災害時の歯科支援における連携の現状とあり方 多職種での「食べる支援」に向けて. 第 23 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2017.09.15
48. 歯科支援の現状と課題および本学会に求めること. 第 23 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2017.09.16
49. これからの災害時歯科支援 ～フレイル予防として～, 災害時の“食べる支援”における多職種連携とその目的. 日本災害時公衆衛生歯科研究会研修会 2017.09.16 東京
50. 熊本地震の歯科支援者における課題～被災支援者における負担の軽減. 日本歯科衛生学会第 12 回学術大会 2017.09.17
51. Erina Tonouchi, Tomoki Muramatsu, Yasuyuki Gen, Hidekazu. Function-based microRNA library screening identified a novel tumor suppressive. 第 76 回日本癌学会学術総会 2017.09.29 横浜
52. 災害が起きても地域を守るために知っておくべきこと. 平成 29 年度 中国・四国地区歯科医学大会「改めて災害時行動を考える」～避難所対応について～ 2017.10.01
53. 災害時歯科保健医療における口腔アセスメント. 全国 7 地区日本歯科医師会平成 29 年度災害コーディネーター研修会 2017.10.08 福島
54. 高橋由記, 東堀紀尚, 船橋健太, 松村健二郎, 伊藤洋介, 上園将慶, 門田千穂, 秋山咲子, 疋田理奈, 鈴木聖一, 森山啓司. 骨格性 級不正咬合患者の発音時における口腔周囲軟組織動態の解析. 第 76 回日本矯正歯科学会学術大会 2017.10.18 北海道札幌市
55. 門脇佳緒里, 打越哲郎, 上園将慶, 菊池正紀, 森山啓司. 歯科矯正用アンカレッジデバイスへの応用を目指した新規 HAp/Col コーティング法の開発. 第 76 回日本矯正歯科学会学術大会 2017.10.18 北海道札幌市
56. 平塚泰三, 高久田和夫, 菊池正紀, 上園将慶, 鈴木聖一, 森山啓司. HAp/Col による急速な骨膜下骨誘導は母骨の吸収機転を伴う. 第 76 回日本矯正歯科学会学術大会 2017.10.18 北海道札幌市
57. 注意を要する口腔粘膜疾患. 東京都国民健康保険団体連合会 歯科部会研修会 2017.10.18
58. 星礼子, 鉄村明美, 山口聰. 下顎嚢胞における画像とオトガイ神経支配領域知覚鈍麻の関係に関する検討. 第 62 回 (公社) 日本口腔外科学会学術総会・学術大会 2017.10.20 京都
59. 中久木康一, 友松伸允, 黒原一人, 小杉真知子, 佐久間朋美, 儀武啓幸, 山口 聰. スーパーフィクソープ MX (R) ステッププレートの有用性の検討. 第 62 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会 2017.10.20
60. 下顎頭の前方滑走運動を誘導する新型開口訓練器の使用経験. 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2017.10.20 京都

61. 友松 伸允, 黒原 一人, 中久木 康一, 儀武 啓幸, 山口 聡. MOJ システム使用による LeFort 型骨切り術の上顎骨の術後安定性に対する検討 . . 第 62 回 日本口腔外科学会総会 2017.10.21
62. 丸岩真由子, 森田圭一, 柏森高, 田中香衣, 道泰之, 山口聡, 池田通, 原田浩之. 腺房細胞癌および乳腺相似分泌癌の臨床病理学的検討. 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2017.10.21 京都
63. 押部 成美, 丸川 恵理子, 板井 俊介, 安川 知里, 原田 浩之. 顎骨病変における開窓療法についての臨床的・X線学的検討. 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2017.10.22 京都
64. 大規模災害時における歯科救護医療について～災害歯科コーディネーターの必要性～. 千葉県歯科医師会 災害対策・救急医療講習会（都市災害対策・救急医療担当者会議内） 2017.10.26 千葉
65. 熊本地震における知的・発達障害児者における歯科的問題と歯科保健活動. 第 34 回日本障害者歯科学会総会・学術大会 2017.10.28
66. 災害時歯科保健医療における口腔アセスメント. 全国 7 地区日本歯科医師会平成 29 年度災害コーディネーター研修会（東京ブロック） 2017.10.28 東京
67. 災害時の歯科口腔保健アセスメントと歯科診療記録の標準化 ～熊本地震の対応より～. 第 76 回日本公衆衛生学会総会 2017.10.31
68. 大規模災害時の歯科保健医療支援における多職種連携. 平成 29 年度 第 6 回 鹿児島大学歯学部 FD 講演会 2017.11.01 鹿児島
69. 災害時の口腔ケア ～災害関連疾病を起こさせないために～. OKKA さんの栄養勉強会～大津・菊池・菊陽・阿蘇地区栄養勉強会～ 2017.11.02 大津
70. 歯科医師の立場から ～災害時の「食べる」を支える歯科支援～. 「災害時の障がい者の摂食を考えよう」, 第 3 回大阪 JRAT 研修会 兼 第 4 回大阪府大規模災害時 要援護者支援活動リーダー養成研修会 2017.11.03 大阪
71. 災害時歯科保健医療における口腔アセスメント. 全国 7 地区日本歯科医師会平成 29 年度災害コーディネーター研修会（近畿北陸ブロック） 2017.11.05
72. 大規模災害時の口腔ケア. 高津地区防災訓練, 高津地区自主防災組織連絡協議会 2017.11.11 神奈川
73. 森田 圭一, 横川 美咲, 及川 悠, 栢森 高, 坂本 啓, 池田 通, 原田 浩之. 口腔扁平上皮癌患者における遠隔転移予測因子の検討. 日本人類遺伝学会第 62 回大会 2017 年 11 月 16-18 日 2017.11.16
74. Erina Tonouchi, Tomoki Muramatsu, Yasuyuki Gen, Hidekazu Hiramoto, Johji Inazawa. Function-based microRNA library screening identified a novel tumor suppressive miRNA regulating BRD4, a BET family gene. 第 62 回日本人類遺伝学会 2017.11.18 神戸
75. これからの社会に果たす歯科の役割—口腔外科の話、災害歯科の話—. 東京医科歯科大学歯科同窓会学術部同窓生講演会 2017.11.18 東京
76. 災害時歯科保健医療における口腔アセスメント. 全国 7 地区日本歯科医師会平成 29 年度災害コーディネーター研修会（中国四国ブロック） 2017.11.19
77. 外内 えり奈, 森田 圭一, 道 泰之, 山口 聡. 口腔がんにおける cell-free DNA の検討. 第 82 回口腔病学会学術大会 2017 年 11 月 19-20 日 2017.11.19 東京
78. 兵頭克弥, 有坂慶紀, 山口聡, 由井伸彦. 血管内皮細胞を活性化するための硫酸化ポリロタキサン表面の設計.. 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会 2017.11.20
79. 押部 成美, 丸川 恵理子, 原田 浩之. 生体分解性 WE43 マグネシウム合金の in vivo における長期検討. 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会 2017.11.21 東京
80. 災害時の歯科支援の変遷と役割. 災害口腔医学研修会（鹿児島）, 平成 29 年九地連研究事業 災害歯科医療支援チームリーダーの養成と支援ネットワークの構築 2017.11.23 鳥取
81. 災害時保健医療支援の目的と位置づけ. 災害口腔医学研修会 2017.11.23 鹿児島
82. 災害時保健医療体制と歯科における体制づくり. 災害口腔医学研修会 2017.11.23 鹿児島

83. 災害時に歯科医師ができる地域貢献. Continuing Education 特別講演, EPIC(Evidence based Periodontology & Implantology Course) 2017.12.03
84. 西原 駿. 骨芽細胞の石灰化と破骨細胞分化支持能に対する cAMP の影響. 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2017.12.06
85. 災害時の歯科保健支援. 平成 29 年度災害支援歯科衛生士フォーラム 2017.12.10 東京
86. 災害時の歯科保健対策～準備・対応・復興～. 平成 29 年度愛媛県歯科保健担当者研修会 2017.12.11 愛媛
87. 災害時における行政の歯科保健担当者の役割について. 平成 29 年度市町村等歯科保健担当者研修会(千葉県) 2017.12.25

[特許]

1. 開口訓練器, 特許番号: 第 6080532 号

[受賞]

1. 平成 28 年度日本顎変形症学会 学会賞「顎変形症患者における顎矯正手術および顎間固定施行後の咬合力と食物・栄養摂取状況」小城明子, 竹内由里, 中久木康一, 黒原一人, 2017 年 05 月
2. 優秀発表賞「歯科矯正用アンカレッジデバイスへの応用を目指した新規 HAp/Col コーティング法の開発」(門脇佳緒里、打越哲郎、上園将慶、菊池正紀、森山啓司), 第 76 回日本矯正歯科学会大会, 2017 年 10 月
3. 優秀発表賞「HAp/Col による急速な骨膜下骨誘導は母骨の吸収機転を伴う」(平塚泰三、高久田和夫、菊池正紀、上園将慶、鈴木聖一、森山啓司), 第 76 回日本矯正歯科学会大会, 2017 年 10 月

[その他業績]

1. 文部科学省科学研究費補助金 特別研究員奨励費, 2017 年
「迅速に骨接合する歯科矯正用骨膜下アンカレッジデバイスの開発」研究代表者 上園将慶
2. 2017 年 01 月
歯科衛生士が考える被災地域での歯科保健活動, 日本歯科新聞, 第 1958 号
3. 2017 年 01 月
熊本地震 歯科医師会はどう動いたか, 日本歯科医師会雑誌
4. 2017 年 01 月
歯科医師会の熊本支援
5. 2017 年 03 月
人々の健康を口から守る～災害時の誤嚥性肺炎予防の事例から～, Mouth&BodyTopics.Vol.3,
6. 2017 年 04 月
特別鼎談 災害時の「食べる」支援を考える, 新聞 QUINT
7. IBS 茨城放送 JA さわやかモーニング やさしい医療「親知らずについて」佐藤豊